

アフリカ・ウイークス学生企画代表インタビュー

アフリカとつながる第1歩に

学生有志が多彩な企画を実施

1面に掲載のアフリカ・ウイークスでは、公募が集まった有志学生の運営で、さまざまな企画が実施された。代表の田村璃子さん(総括3)と並木舞子さん(同)に話を聞いた。

▼運営に携わったきっかけは

(田村) 高校生の頃にアフリカ・ウイークスに参入し、日本からつながる機会を提供することに挑戦しました。

(並木) 私は雑誌企画を担当。アフリカの日常と日本のつながりや比較を重視しました。アフリカ雑貨屋さんに足を運んだり、アフリカ料理を実際に作ってみたり、運営学生自らがアフリカについて積極的に「積極的な姿勢を意識しました。

▼この経験を活かすための将来の夢や目標は

(田村) まずは、実際にアフリカに渡航して学んだことを自分の目で確かめると共に、新しい学びを得たい。将来は教育という専門性を持って、自身がアフリカに「つながる」存在として発信できる方へのインタビューを企画し、日本からつながる機会を提供することに挑戦しました。



アフリカ布と雑誌を手に田村さん(左)と並木さん

▼今回の企画でこだわったポイントは

(田村) 私が担当したトーク企画では、日本からリアルなアフリカを知り感じてもらうことにこだわりました。現地の方々と交流に加え、アフリカに関わ

る方へのインタビューを企画し、日本からつながる機会を提供することに挑戦しました。

(並木) 私は雑誌企画を担当。アフリカの日常と日本のつながりや比較を重視しました。アフリカ雑貨屋さんに足を運んだり、アフリカ料理を実際に作ってみたり、運営学生自らがアフリカについて積極的に「積極的な姿勢を意識しました。

▼この経験を活かすための将来の夢や目標は

(田村) まずは、実際にアフリカに渡航して学んだことを自分の目で確かめると共に、新しい学びを得たい。将来は教育という専門性を持って、自身がアフリカに「つながる」存在として発信できる方へのインタビューを企画し、日本からつながる機会を提供することに挑戦しました。

学部紹介動画シリーズ

Learning at Sophia

全学部の動画が完成、公開に



64人の出演者が語る学部の魅力

学生や教員が、所属学部の魅力や学びを語る動画シリーズ「Learning at Sophia」が完成し、

さるようになりたいです。

(並木) アフリカの渡航歴がないので、やはり渡

制作にあたっては、延べ64人の教員や学生それぞれに各1時間程度のインタビューを行いました。そこで抽出された学部の特色を示すキーワードに基づいて、出演者が切り替わりながら登場するオムニ制作を担当した広報グループは「約70時間にも迫るインタビューから、各学部の魅力を凝縮した内容で再構成した動画です。受験生の方はもちろん、在学生や保証人の皆さんにもぜひご覧いただけて理解を深めるきっかけとなれば」と話しています。

制作を担当した広報グループは「約70時間にも迫るインタビューから、各学部の魅力を凝縮した内容で再構成した動画です。受験生の方はもちろん、在学生や保証人の皆さんにもぜひご覧いただけて理解を深めるきっかけとなれば」と話しています。

大学公式YouTubeチャンネルで、全学部の動画が公開されている。この動画シリーズは、主に受験生を対象に、大先輩の参考にしてもらおうと制作された。各学部の学びの特徴に触れながら、在中にどのよう成長できるのかイメージを膨らませるような構成。

バス形式の構成となっている。説明的な要素を一切省き、出演者の言葉に重きを置いて編集。教員は学生の様子や各学部での学びの特徴、研究の面白さについて、学生は入学後の成長や、学部での学びを経て見つけた将来の夢などについて語っている。

受賞・採択

<p>■電気学会電気学術奨励賞(受賞日:3月28日)</p> <p>倉邊海史 (理工学)</p> <p>専攻電気</p> <p>電子工</p>	<p>■電気学会電気学術女性活動奨励賞(受賞日:3月28日)</p> <p>豊島理彩 (理工学)</p> <p>専攻電気</p> <p>電子工</p>	<p>■世界人権宣言大阪連絡会議主催みんなの人権映像フェスティバル大賞(受賞日:3月18日)</p> <p>山下遥助教(情報理工学)</p> <p>鈴木由美子教授(物質生命理工学)</p>	<p>■同フェスティバル優秀賞(受賞日:3月18日)</p> <p>菅野史紗 (文新)</p> <p>4</p>	<p>■池谷科学技術振興財団単年度研究助成(採択日:4月1日)</p> <p>臼杵豊展教授(物質生命理工学)</p>	<p>■福岡直彦記念財団研究助成および長瀬科学技術振興財団研究助成(両採択日:4月1日)</p> <p>鈴木由美子教授(物質生命理工学)</p>	<p>■宇宙航空研究開発機構国際宇宙ステーション「きぼう」利用高品質タンパク質結晶生成実験基盤研究利用制度採択(採択日:3月3日)</p> <p>近藤次郎准教授(物質生命理工学)</p>	<p>■軽金属学会教育研究資金採択(採択日:3月17日)</p> <p>久森紀之教授(機能創造理工学)</p>	<p>■宇田科学技術振興財団単年度研究助成(採択日:4月1日)</p> <p>臼杵豊展教授(物質生命理工学)</p>
---	---	--	--	--	--	---	---	--



日印協力の重要性を語るヴァルマ大使

5月10日、2号館国際会議場にてサンジェイ・クマール・ヴァルマ駐日インド大使による講演会「交樹立70周年を記念して」が開催された。この講演会は、インド独立75周年および日印国交樹立70周年を記念して企画された。

頭、隣道佳明学長および佐久間勤理事長が挨拶したほか、経済学部長の網倉久永教授が、日本とインドの経済的協力の実績などについて紹介した。

駐日インド大使講演会

日印国交70周年記念企画

ヨーロッパ、アフリカなど世界中の国々において長年にわたり、外交活動に携わってきたヴァルマ大使は、講演に先立ち、「活気あふれる若者たちが、民主主義を推進していく上で最も力強い存在である」と学生たちに語りかけた。そして独立後のインドの経済発展を振り返りながら、日本からの経済的サポートが不可欠なものであると感謝の意を示した。

力強い成長を続ける同国の経済状況について、大使はコロナ禍においてもGDPが8%以上もの伸びを見せたことについて、スタートアップ企業や、国際的躍進など、ビジネスの現場の状況についても分かりやすく解説した。また、同国では女性の社会進出が加速化していること、IT関連企業の就労者の約5割を女性が占めることや、女性の理工系分野の就学率が世界トップであることを紹介した。

大使は先日行われた日印首脳会談の成果にも触れ、「世界における外交関係は、公益を追求する

SDGs & サステナビリティ

本学の取組みを発信



同サイトでは、本学の取組事例や教員をSDGsの17目標から絞り込んで検索できるほか、関連イベントの告知なども行っている。

サステナビリティ推進本部のメンバーで、同サイト立ち上げに関わった相生芳晴IR推進室長は「国内外を問わず若者サイト設立の背景として、「国内外を問わず若

取組事例や教員をSDGsの17目標から絞り込んで検索できるほか、関連イベントの告知なども行っている。

サステナビリティ推進本部のメンバーで、同サイト立ち上げに関わった相生芳晴IR推進室長は「国内外を問わず若者サイト設立の背景として、「国内外を問わず若

第12回上智大学全国高校生英語弁論大会「ジョン・ニッセル杯」開催

高校生のための英語弁論大会「ジョン・ニッセル杯」の2022年度大会が、下記のとおり開催されます。この大会は、英語で発表することを通じて、英語力の向上を図るとともに、高校生たちが将来世界を舞台に活躍する人材として成長するきっかけを掴んでもらいたいという想いから創設されました。上位6位までの入賞者が将来本学に入学した場合、ジョン・ニッセル杯奨学金が支給され、順位に応じて修業年限(4年間※)の授業料相当額的全額または一部が減免されます。※継続審査あり。

本大会では英語の正確さよりも内容や「相手に伝えたい!」という気持ちの強さ、自分の想いや考えを英語で表現し、聞き手に届ける力があるかどうかを重視しています。

本年度のテーマは「Coexistence for a Sustainable Future」です。

本選日・場所:2022年11月19日(土)
上智大学 四谷キャンパス

今後のスケジュール

①1次審査応募期限:2022年8月24日(水) 消印有効

②1次審査発表:2022年10月上旬

※新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては、11月の本選の形式をオンラインに変更する場合があります。

問い合わせ先(メールにてお問い合わせください)
上智大学全国高校生英語弁論大会係 nissel-cup@sophia.ac.jp

募集要項と参加申し込み用紙はジョン・ニッセル杯ウェブサイトからダウンロードできます
http://www.sophia-cler.jp/hs-students/nissel-cup.html

新ウェブサイトは「こちらから」

